

都市再生整備計画(第2回変更)

しらみね
白峰地区

石川県 はくさん
白山市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	石川県	市町村名	ほくなんし 白山市	地区名	しろみね 白峰 地区	面積	20.4 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

【大目標】温泉と伝統的街並みを活かした魅力ある白峰らしさの演出（生活環境の向上に伴う交流環境の拡充～持続可能なスローライフのまちづくり）

- ①伝統的街並みの保全と良好な居住環境（まちなか定住基盤）の形成により、利便性が高く、住む人が楽しみ・誇れる環境を整える。
②歴史、伝統、文化等、普遍的な地域資源のネットワーク化や交流拠点の整備等によって来街者の再訪を促す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■現況

白峰地区は、霊峰白山の玄関口であり、かつては山岳修業の霊場として修行僧や行者で活気を呈したといわれている。また、寛文8年(1668)には、白峰地区を含む白山麓18か村が天領(幕府直轄地)であった。標高約500mの山岳地帯に位置する本地区は、4m近い積雪となる国内有数の豪雪地帯であるが、昭和49年の手取川ダム建設によって、桑島集落(235戸)がダムの湖底に沈んで以来、地区の過疎化が続いている。近年は、白山白峰温泉スキー場や温泉施設に加えて、国指定天然記念物である桑島化石壁から発見された日本最古のジュラ紀恐竜化石を活かした「白山恐竜パーク白峰」、自然と人と防災とのかかわりを学び体験できる「白山まるごと体験村」などが整備されたほか、四季を通じたイベント(雪だるままつり、水芭蕉観察会、若葉まつり、白山まつり、太田の大栴観祭会、百万貫の岩まつりなど)や、白山自然体験村などのソフト事業にも積極的に取り組んでいる。

<人口>平成18年8月現在、地区人口は1,132人、世帯数は387世帯(2.93人/世帯)であり、昭和55年と比較すると、平成18年における人口は8.0ポイント減となっている。また、高齢化率は平成12年国勢調査において32.1%まで増加している。

<産業>国勢調査における産業別就業者割合の推移をみると、第1次産業と第2次産業の人口が減少傾向にある一方、第3次産業人口は増加傾向にある。事業所統計調査における産業別従業者数の割合の推移をみると、建設業(2

■まちづくりの経緯

①地域ぐるみの観光振興

本地区では、昭和46年開設のスキー場をはじめとして、手取川ダム建設を契機に、地域振興の柱として観光・レクリエーション産業の開発が進められ、「温泉総湯」、「天望の湯」、「白山恐竜パーク白峰」、「緑の村」、「白山ろく民俗資料館」、「フィジック白峰」などの観光施設が整備されている。

また、約1万人の入込客を有し、住民総参加で取り組む「雪だるままつり」は、石川県を代表する冬のイベントとして定着しているが、これまで「ふるさとイベント大賞選考委員特別賞(財団法人地域活性化センター)」や「サントリー地域文化賞(サントリー文化財団)」などを受賞し、地域おこしのモデルとして知名度が向上している。

その他、本地区を含む旧1町5村では、『白山連峰合衆国』※を構成し、平成10年には地域ネットワーク型村づくり支援事業として「白山麓地域活性化活動方針(案)」を策定するなど、スキー場や温泉などの観光資源のネットワーク化などによる白山麓地域の活性化が進められてきた。 ※市町村合併のため平成16年11月30日に事業終了

②景観づくりへの取り組み

本地区では、「第二次白峰村総合振興計画(S59)」の中で「街並み(景観)づくり運動」を基幹事業として位置付けて以来、「白峰村居住環境整備モデル計画(S59)」及び「白山連峰合衆国地域住宅計画(H2)」を策定し、平成10年度には、旧白峰村によって「伝統環境保全助成事業」が創設された。

助成金については、平成17年度までの対象累計件数83件、助成累計総額は43,740千円となっており、「白峰型住宅」と呼ばれる伝統的な建築様式を基本とした景観保全型住宅の整備・更新が進められている。

課題

■生活環境の向上が求められる

- ①白峰らしさの演出……………社寺周辺の伝統的街並み景観や白山信仰由来する伝統行事(報恩講等)、住民総参加の雪だるままつりなどの地域資源を活かし、白峰らしさや地域コミュニティを醸成する取り組みが求められる。
②30年後の宝づくり……………白峰型住宅のさらなる普及を図り、住みやすい創造的な地域づくりを進めることが求められる。

■交流環境の拡充が求められる

- ①住民の癒し拠点の整備……………白峰温泉総湯(S55築)は、住民並びに来訪客の心身を癒す場であったが、老朽化が著しく進行しており、保養、健康増進、交流の拠点施設として再整備が必要である。
②歩車動線の整序……………地区中心部の総湯周辺は、狭隘な道路が多いことに加え、施設利用者の車両と歩行者の動線が混在しており、歩車が共存し、安全・安心に地区内を回遊するための施設整備が必要である。
③賑わいづくり……………地区中心部の宿泊、飲食、小売などの商業集積を活かし、住民生活の利便性を確保するとともに、交流人口の増大やリピーターの確保などに向け、官民協働による賑わい創出が求められる。

将来ビジョン(中長期)

本地区は平成17年2月1日に1市2町5村(松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村)の合併により白山市となった。

白山市まちづくり計画(新市建設計画)では、将来像として「自然と伝統を活かし、心豊かで活力あるまち」を掲げているが、その中において、「だれもが健やかに暮らせるまちをつくります(総湯建設)」、「利便性が高く住み良い快適なまちをつくります(白峰集落市街地再整備)」を主要施策として位置付けている。

以上により、白山市まちづくり計画の実現に向けて、本地区における地域づくり推進の基本理念を「白峰の元気・未来づくり(生活環境の向上に伴う交流環境の拡充)」と設定し、環境整備の視点を「生活」と「交流」に据えて、その取り組みを進めるものである。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
イベント参加者数	人/年	全イベントの年間参加者数	既存イベント(雪だるままつり・白山まつり)の見直しや新規イベントの開催によって、年間を通して魅力的なプログラムが確立され、イベント参加者が増加する。	8,000	H17年度	12,000	H21年度
全観光施設入り込み客数	人/年	全観光施設の年間入り込み客数	核的拠点施設や公園・散策路などの整備によって、交流機能が増強され、リピーターを中心とした来訪者数が増加する。	257,000	H17年度	308,000	H21年度
全宿泊客数	人/年	年間宿泊者数	温泉施設の充実による保養機能の進展、ソフト事業の実施による魅力度の向上に伴い、宿泊者数が増加する。	37,000	H17年度	40,000	H21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>●まちなか定住環境の向上 …地域住民の憩いの場、来訪者との交流の場を確保するため、街なかでの公園を整備する。</p>	<p>■基幹事業：まちなか公園整備事業</p>
<p>●まちなか回遊機能の向上 …歩行者の安全安心並びに快適性の確保と、地域の歴史文化に触れ合う機会を拡充するため、狹隘道路などの拡幅と美装化を図る。 …地域の特性を活かした「うるおい空間」を創出するため、歩行者道路並びにミンジャ（小用水）を整備する。 …来訪者の利便性を確保するため、主要地点にサインを整備する。 …交通体系を明確にし、大型車専用駐車場並びに普通車専用駐車場を整備する。</p>	<p>■基幹事業：市道東側1号線整備事業 ■基幹事業：市道中央通り線整備事業 ■基幹事業：市道中央線整備事業 ■基幹事業：市道西側線整備事業 ■基幹事業：文化と歴史の小径整備事業 ■基幹事業：サイン整備事業 ■基幹事業：駐車場整備事業</p>
<p>●まちなかにおける交流環境の拡充 …地域活性化の拠点として、コミュニティ活動を支える地域交流センターを整備する。 …住民並びに来訪者の保養、健康増進、交流の拠点施設として、温泉資源を活用した総湯（共同浴場）を整備する。 …地域の特性を活かし、特産品などを販売供給する施設を整備する。</p>	<p>■基幹事業：地域交流センター整備事業 □提案事業：白峰温泉総湯整備事業 □提案事業：特産品販売供給施設整備事業</p>
<p>●まちなか防災機能の向上 …避難者の長期滞在が可能な拠点として、地域交流センターを整備する。</p>	<p>■基幹事業：地域交流センター整備事業</p>

その他

【「持続可能なスローライフのまちづくり」を進めるにあたって活用する主要な地域資源】

- ①白峰温泉
湯上がり肌が「つやつや」肌となり、「絹肌の湯」ともいわれる透明重曹泉。
- ②白峰型住宅
単純な切妻大屋根の総2階建てで、それに下屋（玄関、仏壇仏間、縁、物置、流しなど）のついたものが基本的構造となる。壁面について、1階が板壁、2階が土壁という形は雄大で美しい。
- ③白山本地堂
明治2年の神仏分離令により、白山上から降り林西寺に納められた。白山本地仏、国指定文化財の「銅造十一面観音菩薩立像」などがある。
- ④山岸家
江戸時代に幕府の直轄領として山林が保護されてきた白峰周辺十八ヵ村を束ねる大庄屋の旧家。ミンジャ（生活用水）や石垣など、伝統的街並みが残される。
- ⑤牛首袖
一説には平治の乱に敗れた源氏一族が白山麓白峰地方に逃れて地元民に教えたものといわれる伝統の糸造り、手織りのなかから生まれる牛首袖（無形文化財）無形文化財。
- ⑥雪だるまつり
白峰地区・桑島地区において、各家が軒先に工夫を凝らせた雪だるまをつくり、蠟燭の灯りでライトアップするイベント。人口の約10倍の来訪者がある。
- ⑦八坂神社の奉納相撲
秋の恒例行事として100年以上の歴史を有する地域のまつり。
- ⑧報恩講料理
親鸞聖人（浄土真宗）に報恩のために行われる法会で出される料理。
- ⑨語り部
白峰地区の歴史・文化・民話を始め、数多くの体験談を語るグリーン・ツーリズムの認定体験指導者。

雪だるまつり



【「持続可能なスローライフのまちづくり」に向けた住民の取り組み】

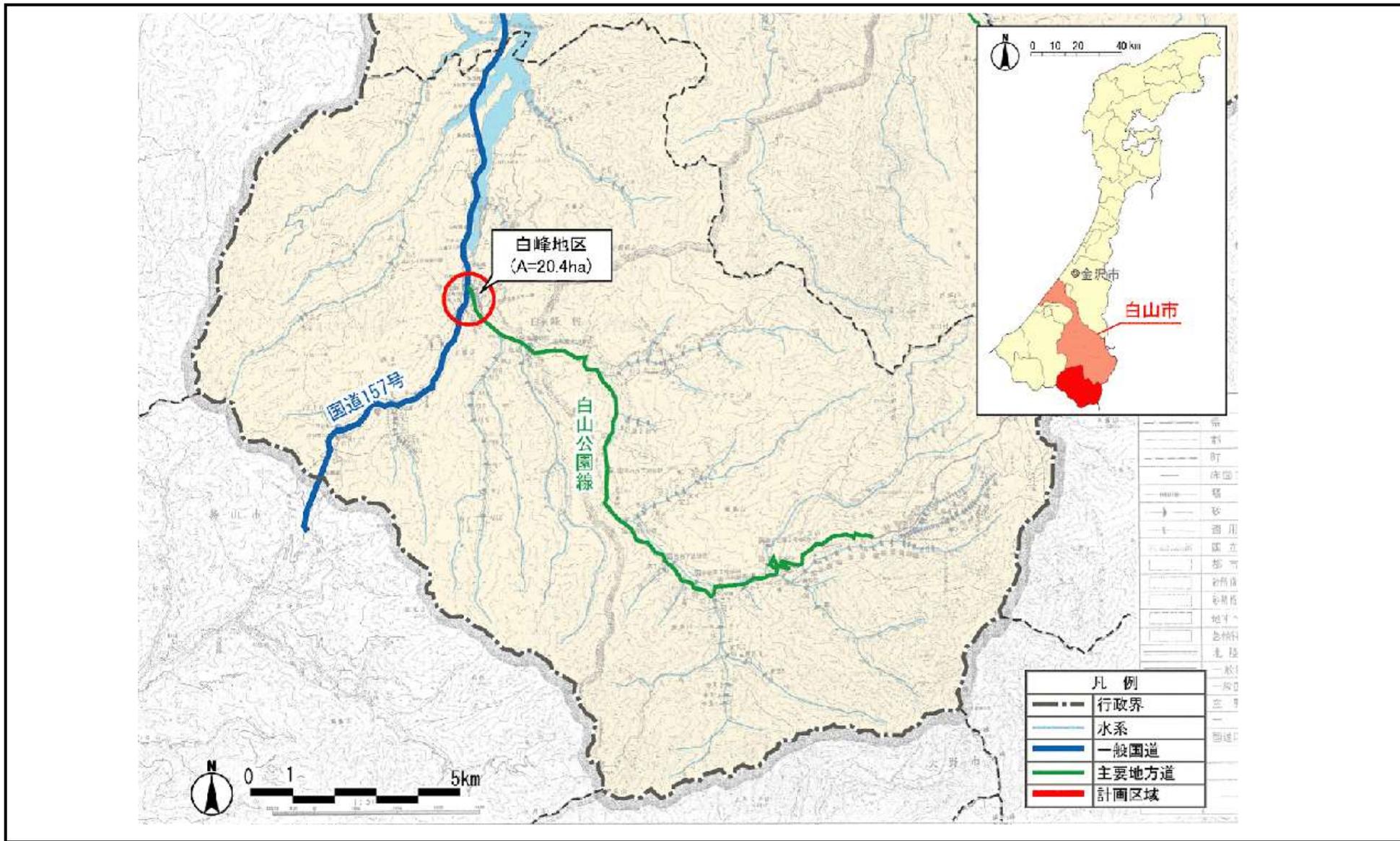
- 本地区では、平成17年4月25日に住民有志によって発足した「白峰で元気に暮らす会」を中心に、本事業に併せて下記事業の展開を図ることが検討されている。
- ①白峰らしい環境づくり
白峰では、これまでも住宅等の更新にあたり白峰らしさの創出に配慮してきた他、ソフト面でも雪だるままつりに代表される地域に根ざした取り組みを進めてきたことを踏まえ、例えば、高山植物栽培などの白峰らしさを感じられる環境づくりに取り組む。
 - ②土地の有効活用
高密度な市街地において、空間の多機能・有効活用を図るため、例えば、駐車スペースの市場スペース等の可変活用など、住民が楽しみながら活動の継続が図れるよう、経済性も考慮した取り組みを進める。
 - ③住民・来街者の滞留拠点づくり
白峰らしい雰囲気を楽しみつつ、住民や来街者の誰もが気軽に立ち寄り、数時間を過ごせる場を継続して提供できるよう、例えば、まちなかの古民家をリフォームし、上質なギャラリーや喫茶、土産物の販売スペース等を提供することに取り組む。

白峰地区の伝統的街並み景観



都市再生整備計画の区域

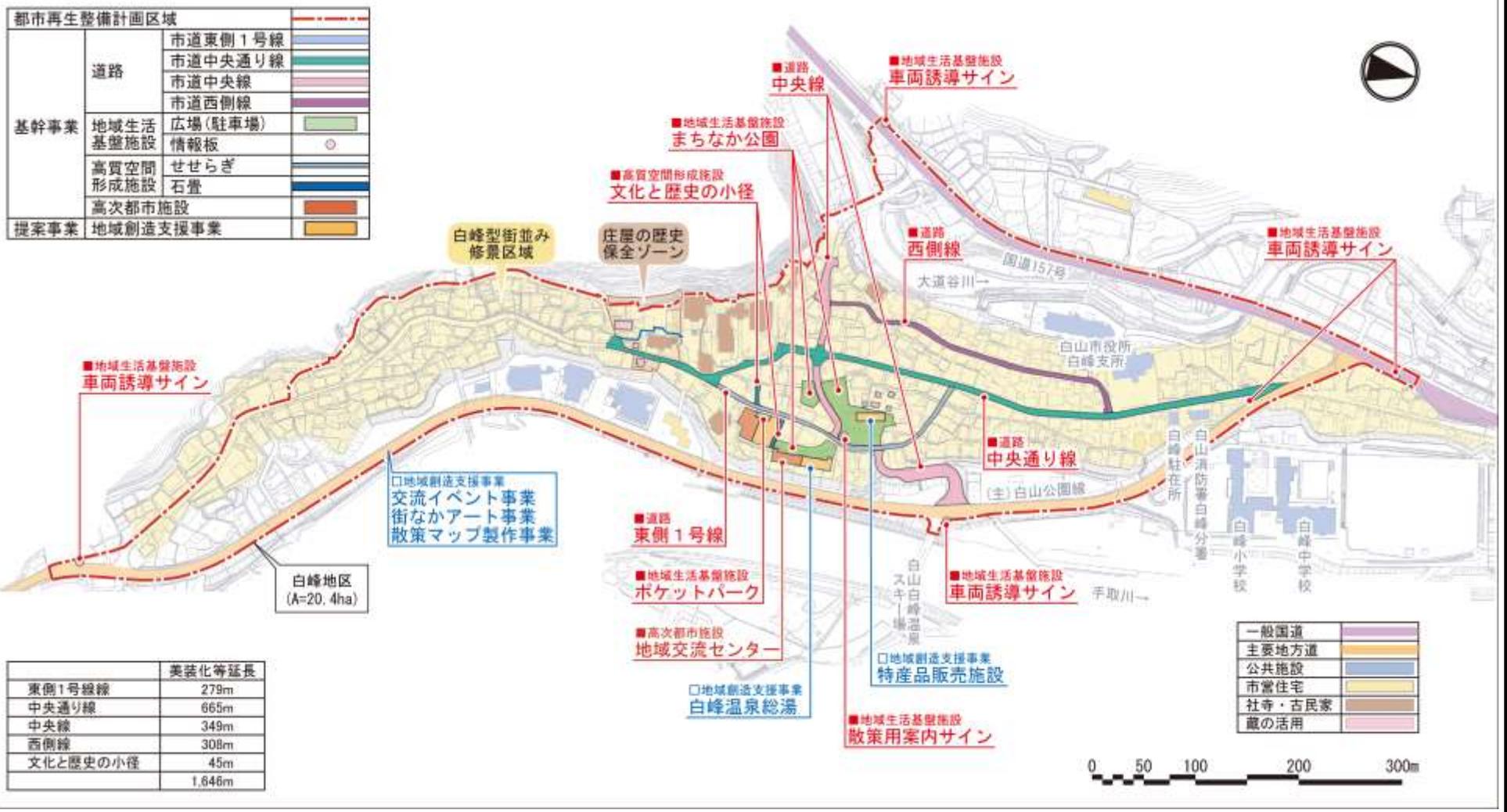
しらみね 白峰地区 (石川県白山市)	面積	20.4 ha	区域	石川県白山市白峰の一部
-----------------------	----	---------	----	-------------



白峰地区(石川県白山市) 整備方針概要図

目標	【大目標】温泉と伝統的街並みを活かした魅力ある白峰らしさの演出 (生活環境の向上に伴う交流環境の拡充～持続可能なスローライフのまちづくり)	代表的な指標	イベント参加者数	(人/年)	8,000	(H17年度)	→	12,000	(H21年度)
	①伝統的街並みの保全と良好な居住環境(まちなか定住基盤)の形成により、利便性が高く、住む人が楽しみ・誇れる環境を整える。		全観光施設入り込み客数	(人/年)	257,000	(H17年度)	→	308,000	(H21年度)
	②歴史、伝統、文化等、普遍的な地域資源のネットワーク化や交流拠点の整備等によって来街者の再訪を促す。		全宿泊客数	(人/年)	37,000	(H17年度)	→	40,000	(H21年度)

都市再生整備計画区域	
基幹事業	道路
	市道東側1号線
	市道中央通り線
	市道中央線
市道西側線	
地域生活基盤施設	広場(駐車場)
高質空間形成施設	せせらぎ
高次都市施設	石畳
提案事業	地域創造支援事業



	美化化等延長
東側1号線	279m
中央通り線	665m
中央線	349m
西側線	308m
文化と歴史の小径	45m
	1,646m

一般国道	
主要地方道	
公共施設	
市営住宅	
社寺・古民家	
蔵の活用	